

第278-11号

令和8年2月 月報

皆さん、お正月疲れ癒えましたでしょうか？

ここの所寒暖の差が激しいですね、 夏が暑い程冬は寒いと言いますが、お体ご自愛下さいませ。

主な行事案内

1)2月14日(土)12時より①②の役員の合同会議を実施します。

日頃の活動に感謝、慰労の食事会をしながらの意見交換会です。

2)2月17日(火)いこいこ健康ウォーク(往馬大社を訪ねるコース)

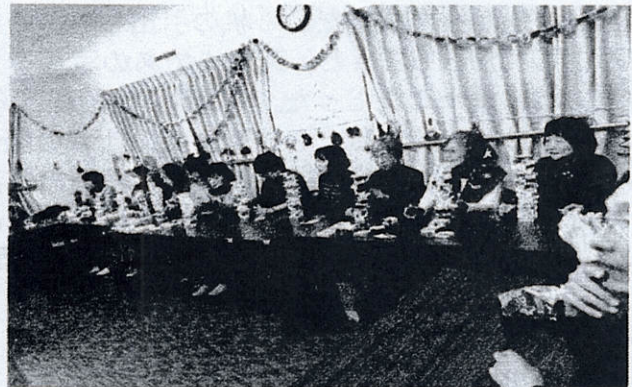
すみません。堀のミスにより申込の案内が遅くなって、ラインでの案内しか出来ませんでした。(参加者には直前に詳しくお伝えします。)

主な実施報告

①12月23日(火)13時30分よりクリ

スマス会を開催しました。

数多い行事の中でも47名と過去最高の参加者の中でゲームあり粗品ありと楽しい時間を過ごしました。又、その為に多くの皆さんで飾り付け等の準備をして下さり有難うございました。



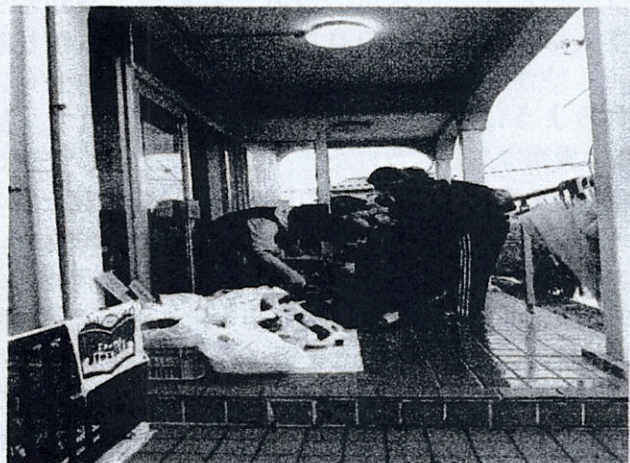
②12月25日(木)北集会所入口付近

に於いて、恒例の朝市を小雨の中で開催しました。

昨年同様多くの皆さんにお越下さいまして、僅かな時間で売り切れとなりました。

お客様の中にはこれでお正月の準備が出来て嬉しいと言う声をいただきました。

(来年はもっと増産したいと思いました。)



行事予定

	行事	日程	時間開催場所等
北 桜 美 会	健康マージャン	2月4日(水)10(火)18(水)28(土)	12時30分～北集会所2階ホール
	いきいき百歳体操	2月6日(金)13(金)20(金)27(金)	13時30分～〇印は掃除クニちゃん体操
	折り紙教室	2月3日(火)	10時～北集会所1階和室
	うぐいす会	2月4日(水)18(水)	13時30分～北集会所1階和室
	いこいこ健康ウォーク	2月17日(火)	往馬大社を訪ねるコース
	いきいきホール掃除	2月17日(火)	10時～いきいきホール(月報配布)
	モルック倶楽部	ラインにて都度連絡	10時～中央公園にて
	カラオケ倶楽部	2月15日(日)	13時～カラオケ喫茶円
	役員会①	2月14(土)	10時～12時 集会所 和室
	役員会①+②	2月14(土)	12時～14時30分北集会所2階ホール
入退会		入会) 神山 敬子様 泉 マツエ様	退会) 岡野 郁雄

[運 命 の 足 音] 五木 寛之 ②

(五十七年目の夏に)

1.一枚の写真 私は相手がうらめしかった。そして結局、いまでも私は送り主のご婦人に返事も、礼状も書かずじまいである。そのことは、固いしこりとなって、ずっと心の隅にひっかかったままだ。 机の引出しも、そのときからまだ一度も開けていない。たぶん、これからもずっと、死ぬまであの写真を見る気持ちにはならないことだろう。その夏、私は満十二歳だった。 1945年(昭和20年)の八月、日本が第二次世界大戦に敗れた年である。当時、私たち一家は父の仕事の関係で、朝鮮半島北部の平壤という街に住んでいた。いまの朝鮮民主主義人民共和国の首都のピョニアンである。戦争に敗ける、という経験は、私たち日本人にとっては、はじめてのことである。しかも情けないことに、いままで植民地として支配していた土地で敗戦国の国民になることの重い意味が、私たちにはぜんぜん理解できていなかったのだ。 要領のいい人たちや、政府高官の家族たちが、敗戦の直前から大きな荷物と一緒に続々と平壤駅から脱失しつつあることもまったく知らなかった。私たち一般市民は事態にどう対処していいかわからないまま、政府の指示をばうぜんと、ただ待っていたのである。 今になってみると、そんな私たちの態度は、おろかしいとも、滑稽とも言いようがない。 ながい戦争の時代をつうじて当時の日本人は、自分の力で身を守ることをすっかり忘れはててしまっていたのだとつくづく思う。 やがて街に旧満洲や、北部朝鮮の町から逃れてくる日本人難民のぎょうれつがみられるようになってきた。ソ連軍に追われて、徒歩で平壤にたどりつく彼らの姿に、私たちは異様な感じをうけた。 ほとんどが女、子供のグループである。 頭を丸刈りにして、顔中に鍋墨をぬっている。男の服を着ている女性たちの姿も見られた。 歩けない子どもを、ずだ袋のようにほこりを立てて引きずっていく母親もいた。 首がぐんと折れて、もう生きてはいないだろうと思われる赤子を、背中に荷物ののようにくくりつけてふらふら歩いてくる女性もいた。 多くの自害者を出し、またソ連軍戦闘部隊兵士たちの暴行やレイプをくぐり抜けながら、母国へ帰ろうと必死で南下してきた人びとだったのだ。 やがてソ連軍が平壤に入場してきた。そしてそれまで他人ごとのように思っていた事態が、たちまち私たちの上にも降りかかってきた。 軍隊の占領に、略奪や、暴行、レイプはつきものである。 そういうことのなかった戦争というものはない、といまの私は思う。しかし、当時の日本人たちは、ただうろたえ、逃げまわるだけだった。

次号に続く